

このたびの受賞でなによりうれしいことは、受持の子どもたちに、生きた教育ができるということです。受賞のよろこびを、子どもたちに話してきかせますと、「バンザアイー」と叫んで、さっそくお得意の「うた」つくりがはじまりました。

ね せんせい ごほうびもらって いい

だいに しまっておくんでしょう
せんせいは いっつもいっつも
ぼくたちに

なんでも おしえてくださるよ
だから ごほうび もらったよ

せんせい きょうは おめでどう
精いっぱい、よろこびの気持を表現
したお祝いのうたをきいて、先生冥利
と申しませうか、こんなうれいこ
とはありませんでした。

この研究は、子どもたちの創造性をの
ばしたいとのねがいからはじめたこと

で、自由自在にうたがつけられるようにな
った子どもたちの成長を眺め、うれし涙
があふれました。

倉橋賞を受けて



細 矢 静 子

昨年、九州大会に出かける時は、「先
生も勉強するの？」と驚いていた四歳児
でしたが、おみやげ話をきいて、遊びの

中に、海底トンネル、若戸大橋といっ
た言葉がとびだし、やがて研究ごっこ
まではじめられ、それが「うた」とな
ったり「宇宙探検隊」の劇にまで発展
した一年間でした。

私もが学会に参加したことから、
思いがけない子どもたちの生活の発展
……。今年はこのよろこびの中から、
また、なにかを学びとっていくこと
でしょう。

論文としては不備な点が多く、お恥
ずかしいことですが、選考理由の第一
は、毎日の保育の中からうまれた研究
であるということで、これには、現場
の教師へのあたたかい思いやりと励ま
しの意味が大きくふくまれておりまし
ょう。今後は、みなさま方に支えら
れ、子どもたちの成長に負けないよう
に、ますます勉強を続けていかなけれ
ばならないと思っております。

(昭和四十二年度)